



これは何でしょう



答えについての思い出などもお待ちしています。

- しめきり 12月13日(休)必着
- あて先 〒783 南州市大浦甲二三〇一 南国市企画課 親子クイズ係
- 賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈
- ◎第213回親子クイズの答えは、太鼓でした。
- 第283回当選者発表(敬称略)
(応募総数13通)
- 岡林千佳 (句表)
- 依光友子 (西山)
- 六重恵子 (野中)
- 武市泰征 (福生)
- 野口幸子 (久礼田)

★思い出がいっぱい★

◆お祭りと言えば太鼓はつきものです。子供のころ氏神様の秋祭りには太鼓をたたかしてもらった楽しい思い出がよみがえります。
(依光友子)

◆四歳の娘が得意顔で「おかあさん、これ、たいこでー大きな音がするがでー」と答えてくれました。その後は、妹と一緒にあき伍のそこをたたき、たいこばやしが続きました。
(にしらりみさき)

◆約三年ぐらいまえに、ぼくの学校に、目の見えない人たちの団たいがきて和たいこをたたいてえんそうをきかせてくれました。大きい音だったのでびっくりしました。
(武市泰征)

◆子供のころ、たいこの音を聞くと、おにやてんぐが山から降りてきて、踊っているような気がしてとっても怖かった。
(長尾由美)

◆村の森に秋祭りが近づくと、若者たちが集まって早くから交替でたたきました。寒い朝も皆の顔は真っ赤になって、汗がにじみ出ました。祭の終わるころは、手のひらに大きなママがいくつもできていました。
(山本学)



みんなの

広場



馬にあこがれて……



東崎で畜産業を営む伊尾木幸祐さんは、かねてからの馬好きがこうじ、平成五年、念願の馬主となりました。家の直ぐそばには専用の馬場をつくり、乗馬を楽しんでいます。

子供のときに自宅で農耕馬を飼っていたそうで、馬が好きになったのはそのせいだとのこと。年を経るごとに馬への思いが募って

ったのか、いつのころからか、自分で馬を飼いたいと早くからなっていたそうです。

幸祐さんが好きで飼いだしたので、もともと動物好きの伊尾木さん一家、いつのまにか家族中で馬が好きになっていったそうです。現在伊尾木さんが所有している馬は、高知の競馬で何度も優勝している芦毛のキープロンク号、中央競馬の障害で活躍していた栗毛

のサザン号、鹿毛のマサヒロキング号の三頭、馬の食事は一日二食、大麦、麦の粉、わら、干し草などで「馬に食べさせるために備えているようなもの」と幸祐さんが言うように、その量はたい



「もう、南国ホースパーク」と名前も決まっています。将来、乗馬クラブを開きたいとのこと。

「もう、南国ホースパーク」と名前も決まっています。将来、乗馬クラブを開きたいとのこと。



ゆかさんは11月、障害飛越の試合に出場。

へんなものです。

今年六月から乗馬を始めた娘のゆかさん。「落とされるのは平気なんです。お尻の皮がむけて痛いんですけど」とのこと。それでもやめようと思えたことはないそうです。そのゆかさん、十一月に初めて障害の試合に出場しました。家のすぐそばにある専用の馬場

市指定無形文化財

三番叟を奉納



十月二十八日、長岡の八坂神社では秋の神祭が行われ、この中で市指定無形文化財の神楽「三番叟」が奉納されました。

三番叟はいわれが記録に残ってなく、いつ、どのように始まったものか不明。普通の神楽は神格を称え、神への願いを訴えるものですが、三番叟は天下太平を祈願し、農民の日々の生活の安全を歌ったもので、神話性がないという点で

多少趣が違います。また、子供による神楽も珍しいそうです。

この日踊り子を努めたのは、廿枝の西川寛造君。踊り子は禮家である五郎落の持ち回りで、小学一〜二年生の子が舞うそうです。西川君は、この日のために約一か月前から練習を開始したとあって、その舞はなかなか堂に入ったもの。我が子の晴舞台に、両親もヒテオキ手に見入っていました。

各地でコスモス祭り

十月末から十一月にかけて、市内各地で見事なコスモスたちが、私たちの目を楽しませてくれました。

また、十一月十九日には、市役所南駐車場で商工感謝祭「コスモス祭り」が開催され、訪れたお客さんは、きれいなコスモス畑の横で繰り広げられたマジックショーや和田アキ子そっくりさんショーを楽しみました。(写真上：日包末、写真下：市役所南駐車場でのコスモス祭り)

